

アイヌ生活文化再現マニュアル

# 踊り

【ウポポ・ホリツパ・リムセ】

旭川・千歳・弟子屈編



## 発刊にあたって

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年より、アイヌ文化等に関する研究の推進やアイヌ語を含むアイヌ文化の振興やアイヌの伝統・文化に関する知識の普及・啓発を進めるため様々な事業を展開しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

## 目 次

発刊にあたって

はじめに ..... 5

### 〈旭川地方〉

イラッ ウポポ（うたぐり踊り） ..... 10

チカブ ウポポ（鶴の舞い） ..... 19

### 〈千歳地方〉

ホリッパ（輪踊り） ..... 30

フチトノトアンナ（宴の踊り） ..... 34

イッケウエ（健康を誇る踊り） ..... 38

カムイランナー（神々との踊り） ..... 40

### 〈弟子屈地方〉

ヘクリサラリ（お盆の踊り） ..... 44

ピリカ オッカイ リムセ（良い男の舞い） ..... 51

おわりに ..... 60

参考文献 ..... 62

踊りを体験できる施設 ..... 63

### 凡 例

- ・映像編で入れることのできなかった解説等も記しました。したがって、映像編と文言等で一部異なる個所があります。
- ・アイヌ語はすべてカタカナで表記し、現在各地域で伝承されている言葉で記載しております。

## はじめに

アイヌの人たちは、祭りや儀式などで人が集まった時には、歌ったり踊ったりしました。踊りは各地の方言によって「リムセ」、「ホリツバ」、「ウボポ」、「ヘチレ（ヘチリ）」などと呼ばれ、その種類は多種多様です。狩猟や採集の対象であった動植物をモチーフとして表現したり、体力の続く限り踊る、体力くらべのようなもの、杵つき等の作業の様子を踊りにした<sup>はら</sup>ものなどがあります。こうした娯楽としての踊りの他に、神々への感謝の気持ちを表す踊りや、魔を祓うための踊りもありました。



一般財団法人 アイヌ民族博物館蔵 「白老アイヌの生活」(大正11年)より

現在では、自分が楽しむものから劇場で上演するなど、観客に見せるという要素も加わっています。また、歌のメロディーや歌詞が似ていても意味や解釈が異なっていることがあり、地域や時代により変化してきたとも考えられます。

このマニュアルでは、北海道の旭川地方・千歳地方・弟子屈地方の3つの地方に伝えられている踊り7種を紹介します。

**旭川地方**：「イラッ ウポボ（うたぐり踊り）」

「チカブ ウポボ（鶴の舞い）」

**千歳地方**：ホリッパ（輪踊り）の中から3つの踊りを紹介

「フチトフトアンナ（宴の踊り）」

「イッケウエ（健康を誇る踊り）」

「カムイランナー（神々との踊り）」

**弟子屈地方**：「ヘクリサラリ（お盆の踊り）」

「ピリカ オッカイ リムセ（良い男の舞い）」



イラッ ウポボ



チカブ ウポボ



ホリッパ〜 (フチトトアンナ)



ホリッパ〜 (イッケウエ)



ホリッパ〜 (カムイランナー)



ヘクリサラリ



ピリカ オッカイ リムセ

## ■ 解説者

### 旭川地方

旭川チカップニアイヌ民族文化保存会

川村兼一さん



### 千歳地方

千歳アイヌ文化伝承保存会

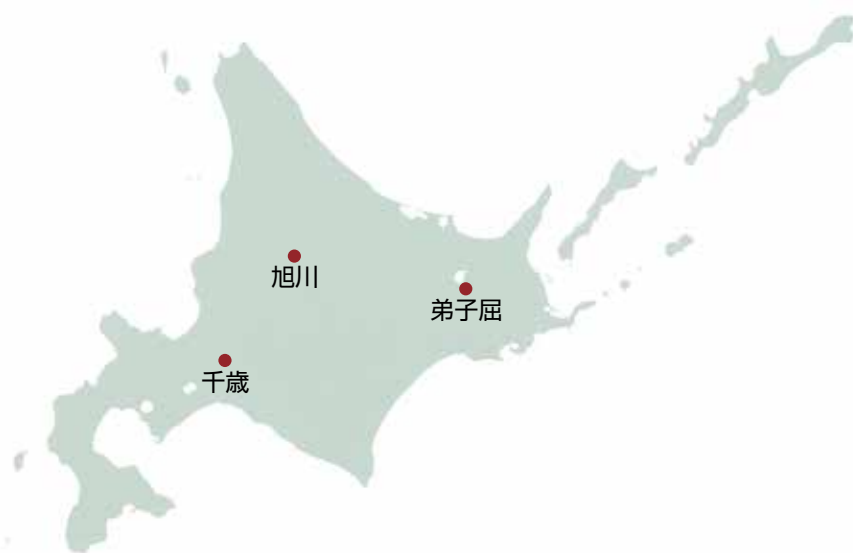
中村勝信さん



### 弟子屈地方

弟子屈町屈斜路古丹アイヌ文化保存会

後藤洋子さん



# 旭川地方

# イラッ ウポポ (うたぐり踊り)



イラッ ウポポ

北海道旭川地方に伝わるイラッ ウポポ (うたぐり踊り) は、占いをする踊りです。大事な踊りということで、儀式の時に踊りますが、普段の遊びでは踊りません。踊りの内容は、置いてあった6本の鮭が無くなったため、盗ただろう、いや盗ってないと、二組に分かれて、うたぐります。

## ■ 歌詞

♪ヘイヨー ヘイヨー ヘイヨー ヘイヨー (3回くりかえす)

♪サツチェブ シーケェ イーワン シケェ

♪シンブーイ サムタ アナマー アーワー

♪イーサム イーサム ヘイヨー ヘイヨー

♪ソンノー ソンノー ヘイヨー ヘイヨー

♪ソンノー ソンノー ヘイヨー ヘイヨー

2回目以降

♪ウーワー ウーワー ウーワー ウーワー

(5回くりかえす)

鮭を盗ったのかどうかの占いで使用するのが、トウキ（杯）とイクパスイ（捧酒箸）です。

これらは、神に祈りの言葉を伝える道具です。



うたがう側とうたがわれた側に分かれ、踊り手が頭上からトウキを落として占います。トウキが表を向けば取っていないと嫌疑が晴れて、伏せた場合には、盗ったと疑われます。

トウキが伏せて、うたがわれた場合は、相手の側に連れて行かれそうになりますが、仲間の人たちは、『フッサ、フッサ』とお祓いはらの言葉を唱えて助けます。



## ■ 踊りの各部

祭壇もしくは客席に向かって踊ります。踊り手は6人で、うたがう側とうたがわれている側の2組に分かれます。占いをする人以外は、上下に手をたたいて拍子をとり、足踏みをするようにひざを屈伸します。



### <うたがう側の占い>

最初にうたがう側が、占います。  
うたがう側の奥の人がトッキとイクパスイを持ちます。



占う人は、トッキとイクパスイを両手で持ち、足踏みをするようにひざを屈伸します。途中でオンカミ（拝礼のしぐさ）して、右手にイクパスイを持ち拍子をとります。



●オンカミ（拝礼のしぐさ）の方法

〈図1〉



※ここではトウキとイクパスイを手に持ちながら行っています。

足踏みを続けながら前に進んで、向かいの人の前で止まり、イクパスイの先を相手の右肩、左肩、頭の順に差し出します。残り2人にも同じ動きをします。



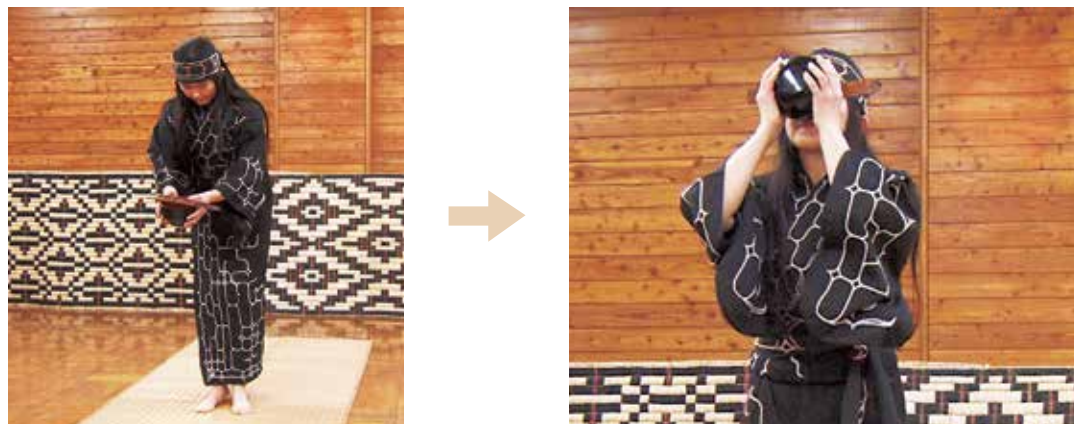
〈図2〉



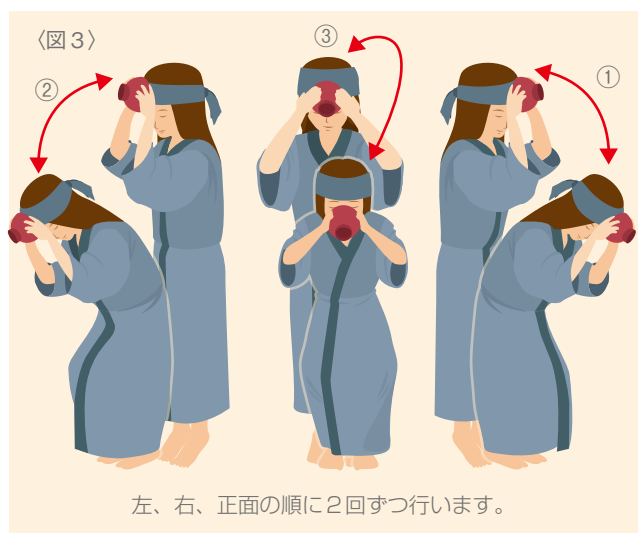
イクパスイの先を相手の左肩、右肩、頭の順に差し出します。



中央に移動した後、ひざの屈伸をしながらオンカミして、杯を飲むしぐさをします。



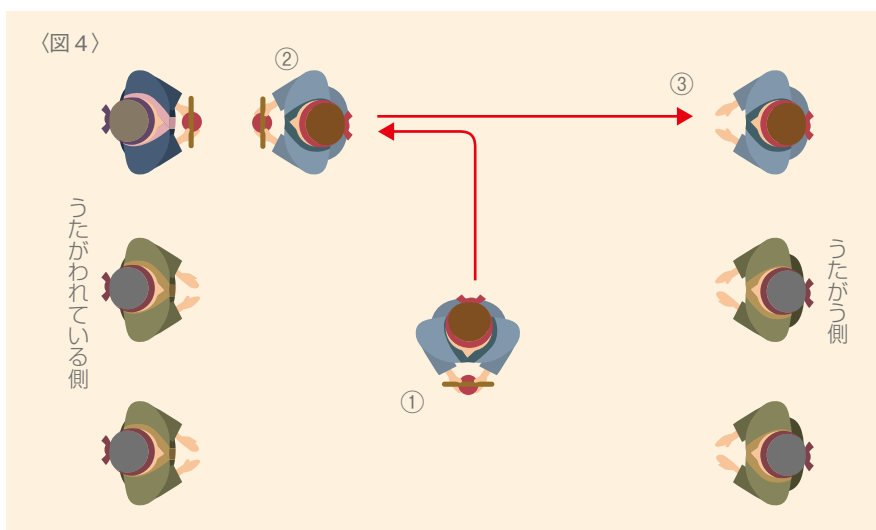
その後、トッキとイクパスイを頭の前に持ち、跳ねて腰の曲げ伸ばしをします。左、右、正面の順で2回ずつ行い、正面の2回目、前に落とします。



トウキが上を向いたので、手をたたきながらトウキに近づき、イクパスイとともに取り上げます。



イクパスイで調子をとって、ひざを屈伸しながら後ろへ下がります。うたがわれている側の奥の人と向き合いオンカミしてトウキとイクパスイを渡し、手をたたきながら最初の場所に戻ります。

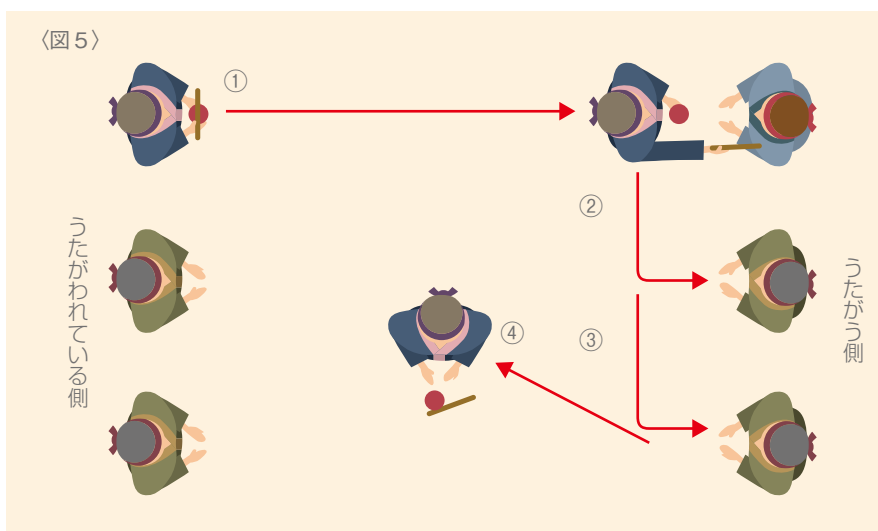


<うたがわれている側の占い>

受け取った人は、もう一度オンカミしてひざの屈伸を続けながらイクパスイで拍子をとります。



うたがわれている側の占いも、うたがう側の人と同じように振舞います。



うたがわれている側の占いの動き

左、右、正面の順で2回ずつ腰の曲げ伸ばしをして、正面の2回目で、前に落とします。



トゥキが伏せた形になったので、うたがう側の人たちは非を責めて、自分たちの側に引き込もうとします。



うたがわれた側は「フッサ、フッサ」と唱えて連れ戻します。



中央に戻り、トゥキとイクバスイを拾い上げて後退します。

うたがう側の奥の人と向き合い、オンカミしてトゥキとイクバスイを渡します。



元の位置に戻ると、歌が終わり、動きも止めます。



### 【踊りのながれ】

①

うたがう側、うたがわれる側に分かれて向かい合います。トゥキとイクパスイを持たない人は手拍子と足は屈伸し続けます。

②

うたがう側の奥の人がトゥキとイクパスイを持って、向かいの人を占い、正面でトゥキとイクパスイを落とします。

③

トゥキが上を向いたら、トゥキとイクパスイをうたがわれている側の奥の人に渡し、元の場所に戻ります。

④

うたがわれている側の奥の人が、同様にうたがう側を占い、トゥキとイクパスイを落とします。

⑤

トゥキが伏せた形になると、うたがう側の人たちに責められ、うたがわれている側の人たちに連れもどされます。

⑥

うたがわれた人はトゥキとイクパスイを拾い、うたがう側の奥の人にオンカミして、トゥキとイクパスイを渡して、元の場所に戻ります。

本来、イラウボボは、踊り手全員が占いをしますが、今回紹介した踊りでは、舞台等での上演用に、うたがう側、うたがわれている側それぞれ1名のみ踊ります。

# チカプ ウポポ (鶴の舞い)



チカプ ウポポ

チカプ ウポポのチカプとは鳥のことで、ここではツルを指します。ウポポは、旭川では、踊りの総称です。この地域に伝わる話では、大雪山へ狩りに行ったコタンコロクル（村おさ）が、ツルの巣籠りを見て、鳥の母性愛を踊りに表したものとされています。現在は、旭川でツルを見ることはできませんが、かつて北海道各地にツルが生息し、大雪山系の付近でも見られたといわれています。チカプ ウポポは、旭川では、代表的な踊りでイオマンテ（熊の霊送り）や新築祝いなど、おめでたい時に踊りました。

## ■ 歌詞

♪アウサー アー ハウオ アウサー アー ハウエ

♪フツツツツ ホックウエ

♪ルルルルルル…

♪チャク チャク チャク チャク ピーヤク

チカッ ウポボは、祭壇または客席に向かって踊ります。踊り手は6人です。  
雛鶴の2人が中心に座り、親鳥が両サイドにいます。手拍子をする女性が2人、親子鶴の間に座ります。  
踊りは、雛鶴が飛び立つまでを親鶴がかばう、鳥の母性愛を表したものです。



鶴の踊り手は、常にひざの屈伸を続けるのが特徴です。

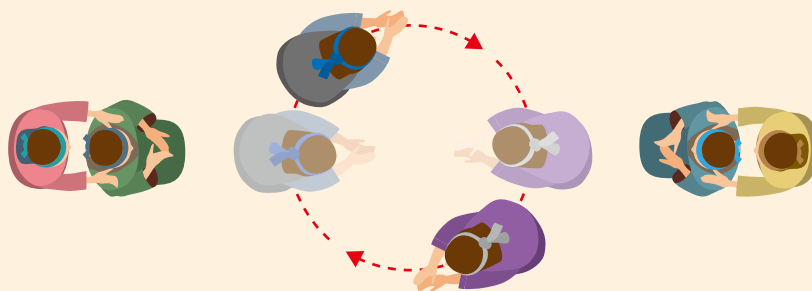


## ■ 踊りの各部

初めに、親鶴は跳ねて前の人の肩をたたきます。子鶴は手をたたきながら円を描いて跳ね、徐々に立ち上がります。



〈図6〉



両端に親鶴と座った人、中央に子鶴の順で並び、子鶴は手をたたきながら円を描いて跳ね、徐々に立ち上がります。

親子鶴の基本的な同じうごきです。

親子とも、身体の客席側で手をたたき、胸に引きあげる動作を3回行います。手をたたくときに屈み、手を引き上げるときに跳ね、両手を胸に持ってきたときにはひざを曲げます。



反対側も同じ動きをくりかえします。



※踊り手の口周りの模様は、かつて旭川地方のアイヌの女性がしていたパーナイいれずみ(刺青)を再現したものです。  
刺青は、多くの地方でシヌイエいれずみ(シヌウエ)と呼ばれます。

つづいては、両袖の袖口をつかんで踊ります。  
両腕を広げるときに袖をつかみます。



両腕を胸に戻し、左腕  
を広げる動作を3回、右腕  
も同じ動きをくりかえします。



袖をつかみ、腕を曲げ・広げることで羽ばたきを表します。移動しても顔は常に正面を向き、あわせて身体を傾けます。

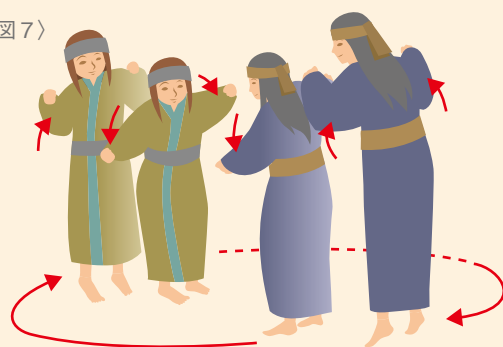
A



B

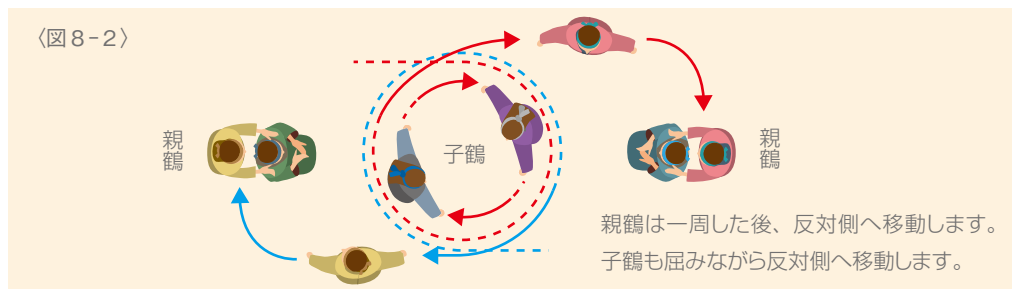
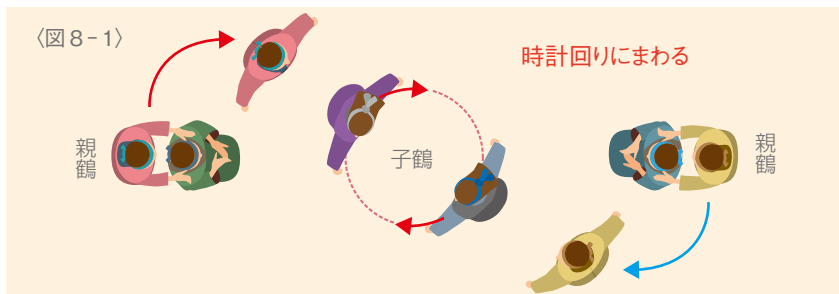


〈図7〉

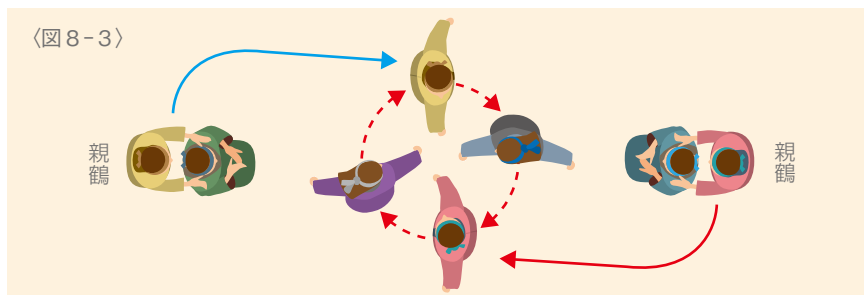


膝の屈伸は続けながら、袖をつかみ、腕を曲げて、広げる動きをします。身体は傾けて行います。

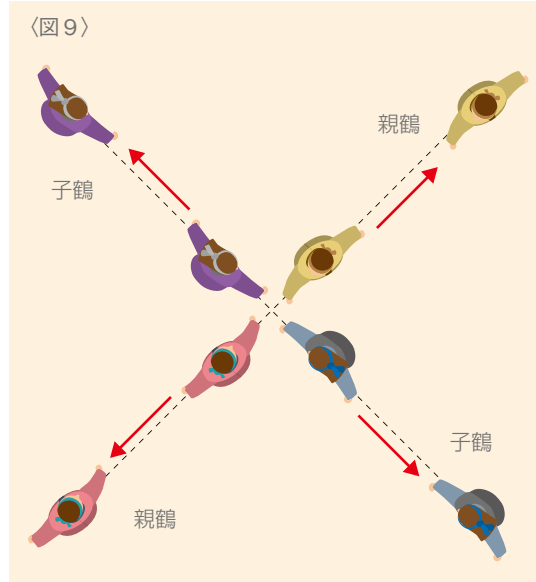
子鶴は羽ばたきながら時計回りに回り、親鶴は羽ばたきながら子鶴に近づき、後について一緒に回ります。



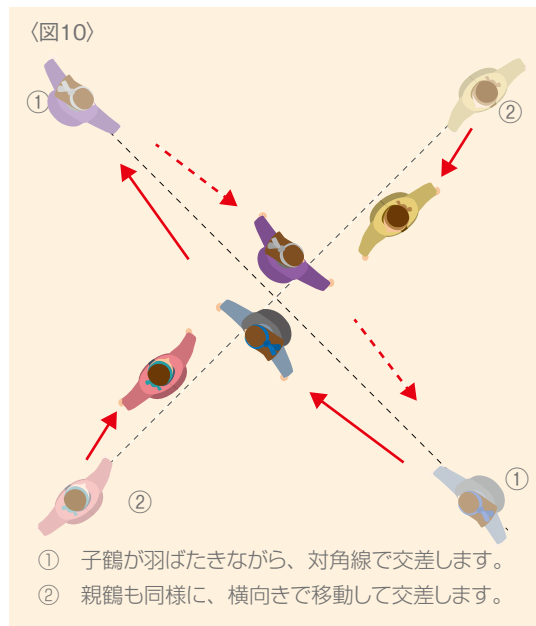
親鶴は子鶴から離れて親鶴の位置に戻り、子鶴は手拍子に替えて、跳ねながら徐々に屈みます。



親子それぞれが対角線に並び、羽ばたいて四隅に離れます。この時、親子鶴の間に座っていた人は、左右に退場します。



子鶴、親鶴の順に横向きで移動し背中合わせで交差します。



それぞれ2回交差し、親鶴が子鶴をはさんで、一列に並びます。並び終えて3回羽ばたいて止まります。



## 【踊りのながれ】

1

親鶴は両脚で屈伸をしながら前の人の肩をたたきます。子鶴は手をたたきながら回り、徐々に立ち上がる。

2

1周したら、親鶴も子鶴も身体の客席側で両手をたたき、胸に引き上げる動作を3回します。反対側も同じように。

3

ア 1回  
イ 各3回

アの動作を1回、イの動作を客席側に3回、反対側に3回し、(A)は(C)に(C)は(E)の後ろに付いて1周する。顔は客席側に向ける。

4

親鶴は元いた所の反対側へ移動し、前の人の肩をたたく。子鶴も徐々に屈みながら元いた所の反対側へ移動し、ついたら、立ち上がり②と③のア、イの動きをする。

5

親鶴は、子鶴の間にいる。顔は円の中心へ向ける。

6

親鶴と子鶴が対角線にそろったら、③と⑤は退ける。

7

羽ばたきながら、四隅に離れます。

8

方向転換  
子→親→子親の順で羽ばたきながら、横向きで移動し背中合わせて交差する。

9

元の位置に戻ったことを確認し、親鶴が子鶴を囲むよう一列に並び、3回はばたく。

# 千歳地方

## ホリツパ（輪踊り）

ホイヤーホー / フチトノアンナ（宴の踊り）  
イッケウエ（健康を誇る踊り） / ハンニシポハラホイ  
カムイランナー（神々との踊り）



ホリツパ

ホリツパは、輪踊りと訳されています。千歳では独立した5つの踊りを組み合わせています。それぞれの踊りは関連を持っていません。ホイヤーホー、フチトノアンナ、イッケウエ、ハンニシポハラホイ、カムイランナーです。これらのうちホイヤーホーとハンニシポハラホイは、はやし言葉やかけ声を踊りの名としています。千歳地方では、踊り手が自ら歌いながら踊ります。

ホリツパは、時計回りで輪になって踊り、人数に制限はありません。男女一緒に踊ります。それぞれ、劇場での上演なども考え一週したところで、次の踊りに替わりますが、本来は、廻る回数も時間も決まりはありません。踊り飽きたら、次の踊りへと替えたようです。

## <ホイヤーホー>

女性は手をたたきながら、横に歩き、男性は刀を突き出して踊ります。

### ■ 歌詞

♪ホイヤー ホー  
(かけごえ：ホイ ホイーホイ ホイーホイ)  
以上くりかえし



ホイヤーホー

## <フチトノアンナ>

宴の踊りです。杖を持った老婆が登場し、宴の席で、老婆が杖を使って踊り手の邪魔をします。その都度、近くにいる人が老婆をなだめます。

### ■ 歌詞

♪フーチートーノートー アンナ  
以上くりかえし



フチトノアンナ

## <イッケウエ>

健康を誇る踊りです。女性は、腰に手を当てて、身体をひねりながら踊ります。

### ■ 歌詞

♪イッケウエー ホツフン  
以上くりかえし



イッケウエ

## ＜ハンニシポハラホイ＞

女性は、手を下に広げたり、胸元に持つてくる動作を繰り返します。

### ■ 歌詞

♪ハンニシポ ハラホイ

以上くりかえし



ハンニシポハラホイ

## ＜カムイランナー＞

神々との踊りです。

女性は、円の中心に手を差し出して手招きしたり、両腕を上げ下げします。

### ■ 歌詞

♪カムイランナー トーランナー

ホッランナ ホッランナ

以上くりかえし



カムイランナー

カムイランナーの終わりで観客側を向いて並び、オンカミ(拝礼のしぐさ)をします。女性は鼻の下を人差し指でなでるしぐさ(エトッフカラ:女性の礼拝)をします。



# ホリッパ

## フチトノアンナ / イツケウエ / カムイランナー

ホリッパの中から3つの踊りを紹介します。  
フチトノアンナ、イツケウエそしてカムイランナーです。

### ■ ホリッパ共通で使う男性の道具

- ・ 刀
- ・ 刀掛け（刀を肩にかけるための帯）



### ■ 男性の踊り

男性の踊りはすべて共通です。刀の刃を自分に向けて立てて持ち、横に進みます。刀を前に突き出して刀の鏝（つば）を鳴らし、顔の手前に引きます。脚は、左足で踏み出し、引いてくる右足で床を強く蹴ります。



## ● フチトノアンナ



フチトノアンナは、ある時お祭り（熊祭り）があつて、その祭りに、このフチ（おばあさん）が招待されなかつたために、呼ばれていないフチが怒つて宴会場にやつてきたところ、宴会に来ていた人が「まあまあ仲良くやりましょうよ、おばあちゃんお酒がありますよ（だから一緒に仲良くやりましょうという意味が込められています）」となだめます。フチトノアンナでは、フチ役となだめる女性2人が他の踊り手とは違つた動きをします。フチはおばあさん、トノトはお酒、アンナはあるよ、という意味です。

### ■ 踊りの各部

#### 〈女性の道具〉

フチ役は着物を頭からかぶり、杖を持ちますフチは腰を曲げて踊ります。



基本的な動きです。

### 〈フチと近くの女性以外の踊り手〉

手をたたきながら、左足を横に踏み出した後、右足を引いて足を揃えた時にひざを屈伸します。

この動きをくりかえします。



### 〈フチと2人の女性〉

前の人は後ろ向きで進みます。フチは杖について歩き、途中で杖を突き出すと、前後の2人はフチをなだめるしぐさをします。



フチが後ろを向いて、杖を突き出すと後ろの人は手拍子やなだめるしぐさをします。

3人は再び歩き出し、フチは、一周する間に3回ほど杖を前後に突き出します。





## ● イツケウエ



イツケウエは腰という意味です。昔の若いアイヌの女性たちは、一晩中踊り続けて最後まで踊っていたものが勝ちという、自分の健康と美貌を競った踊りといわれています。

### ■ 踊りの各部

腰に手を当てて、時計回りに歩きます。踏み出した足のひざを深く曲げ、踏み出す足に合わせて身体を左右に向けます。顔は円の内側に向けます。この動作をくりかえしながら一周します。





## ● カムイランナー



カムイランナーのカムイは神で、ランは上から降りてくるという意味です。神が天から人間の世界に降りてきたので、仲良く遊びましょうという意味です。カムイランナーでは、踊り手の右手は神がいる輪の中心を指して手招きし、左手を肩にあてます。これは神が上から降りてきたという意味を表しています。

### ■ 踊りの各部

女性の基本の動きです。

左手を左肩に置き、右腕を横に伸ばして4回上下させます。



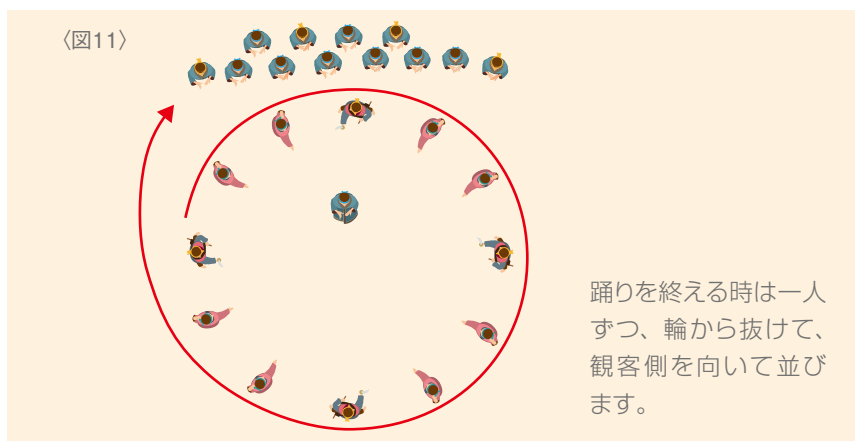
右腕を伸ばしている時は身体を進行方向に向け、顔は円の中心に向けます。



次に、両腕を下げ、胸元に引きあげる動作を2回行います。腕を下げるときは、前かがみになります。両腕を上下させるときは体を円の中心に向け、横に進みます。



踊りの終わりに、輪を解いて観客側を向いて並びます。刀を収めて感謝の言葉を述べ、男性はオンカミ、女性は鼻の下を人差し指でなでるしぐさ（エツフカラ：女性の拝礼）をします。





カムイランナーのアイヌ語の歌詞は、神様が降りてきたよという意味ですが、その言葉には、「だから一緒に踊りましょう、仲良くしましょう、神様を大切にしましょう」という思いが含まれています。

# 弟子屈地方

# ヘクリサラリ（お盆の踊り）



ヘクリサラリ

※伝統的なイタではなく踊り用に用意したものを使用



イタ（盆）



ヘクリサラリは、盆のやり取りをする踊りです。イタと呼ばれる盆は、日常生活で使用するものですが、アイヌ文様が彫刻されていました。盆をやり取りする踊りは、特に若い女性のモノを大切にすることを養うということから始まったようです。ヘクリサラリは娯楽的な踊りの1つで、みんなで楽しむ競い踊りです。踊りは、盆を持つ人は取られないように盆を前に出したり引いたりし、もう一人は盆をつかもうと左右の手をのびします。途中で盆を投げ、取れなくて落としたら負けです。踊り手は6人で、女性だけでなく男性も参加できます。

## ■ 歌詞

♪ ヘクリ サラリ ハハファイ ハファイ 以上くりかえし

## ■ 踊りの各部



盆を中央に置き、踊り手は2組に分かれて向かい合います。それぞれの先頭は片ひざをついた姿勢で手をたたき、他の人は立って手をたたきます。

次に両手で床を軽くたたき、身体を左から右へ向け左へと戻します。



屈んだまま跳ねて前に進み、盆を取りに行きます。



どちらかが盆を取って立ち上がり、盆を取った方は盆をたたき、もう一人は手をたたいて元の位置に戻ります。



踊り手は向き合って、オンカミします。正面、左、右、正面の順です。

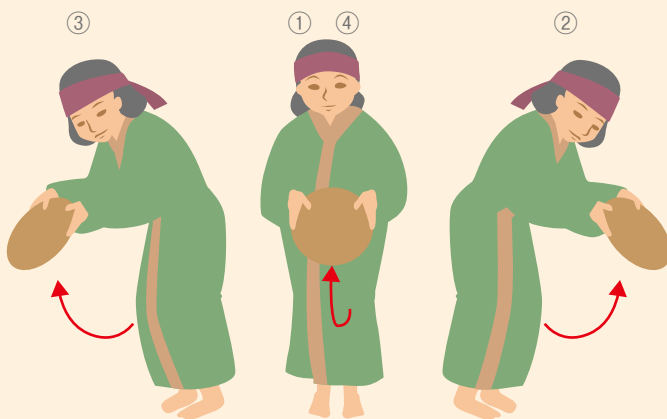


### ● オンカミの動き

〈図12〉

- ①盆を両手で持ち、正面に向かいあって、盆を徐々に持ち上げる。
- ②左を向いて同じ動きをする。
- ③右を向いて同じ動きをする。
- ④再び正面を向いて、同じ動きをする。

※盆を持たない人は盆なしで同様の動きをする。



お互いに前に進みます。盆を持つ人は取られないように盆を出したり引いたりし、もう一人は盆をつかもうと左右の手をのばします。



頃合いを見計らって、盆を前方に投げます。



相手が盆を取った場合は、立場を入れ替えて踊ります。



落とした場合は、落とした側の次の人と  
交替し、オンカミして再開します。



最後の組で、盆を取った人が盆をたたいて喜びます。



踊りの最後は、お互いに向き合って一回オンカミします。




## 【踊りのながれ】

①



盆を中央に置き、2組に分かれて、向かい合い手をたたく。


②



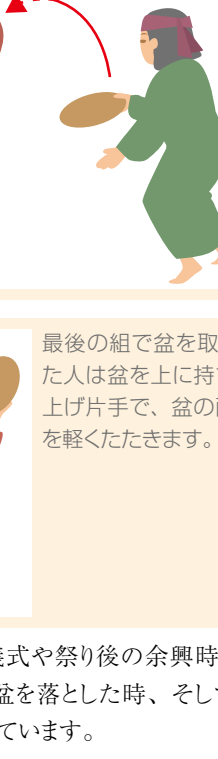
先頭の人が片ひざをつき、かがんだまま盆を取る。

③

元の位置に戻り、お互いにオンカミを行う。  
※盆を持っていない人は盆なしで同様に行う。




④



盆を出し引きして、取られないようにする。

⑤

頃合いを見て、盆を向かいの先頭の人へ向けて、放り投げる。

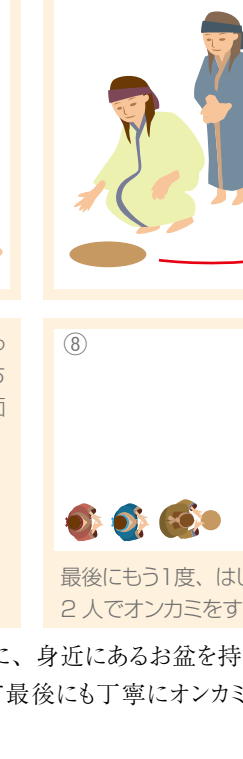


⑥

〈盆を落とした場合〉  
盆を落とした人は先頭から後尾へ移動し、次の人と交替する。盆を落とした側の次の人は③と同じようにオンカミをしてくりかえす。

〈盆を取った場合〉  
人はかえず、立場を入れ替えて踊ります。

※③～⑥をくりかえす。

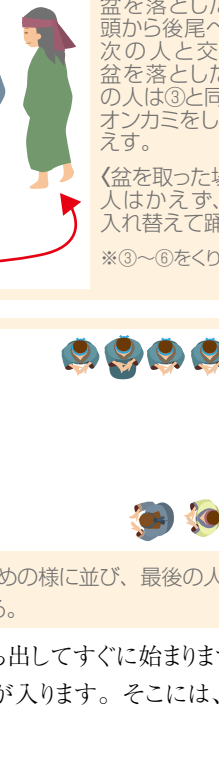


⑦

最後の組で盆を取った人は盆を上を持ち上げ片手で、盆の面を軽くたたきます。



⑧



最後にもう1度、はじめの様に並び、最後の人を先頭に2人でオンカミをする。

ヘクリサラリは、今でも儀式や祭り後の余興時に、身近にあるお盆を持ち出してすぐに始まります。楽しい中にも、始まりの時、お盆を落とした時、そして最後にも丁寧にオンカミが入ります。そこには、神々への感謝の気持ちがこめられています。

# ピリカ オッカイ リムセ (良い男の舞い)



ピリカ オッカイ リムセ

ピリカ オッカイ リムセは、ピリカは良い、オッカイは男、リムセは踊り、つまり良い男の踊りという意味です。通称、北海道内では、「色男の舞い」とも言われています。また、もう一つ呼び名は、シネ オッカイトウ メノコといい1人の男性と2人の女性という意味です。ピリカ オッカイ リムセは、2人の女性が1人の男性を奪い合うというストーリーのある踊りです。儀式や後祭りの時に、踊られますが、仲間内で楽しむ踊りです。女性が仲間内で踊るときは半ば本気になって、踊るような場面もあります。

## ■ 歌詞

♪ハ オッカイ カーイ チサク

♪ソレ ア ソレ ア ソレ

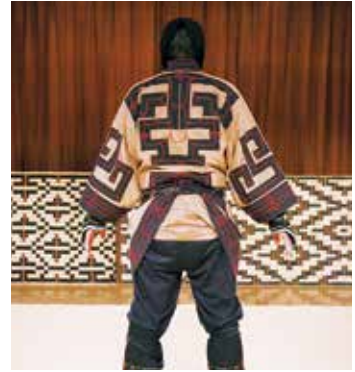
♪ソレ ソレ

♪ニンバ ニンバ (男性を引っぱるときに)

以上くりかえし

## ■ 男性の衣装

- ・頭に手拭いをかぶる
- ・着物は尻端折りをします



## ■ 踊りの各部

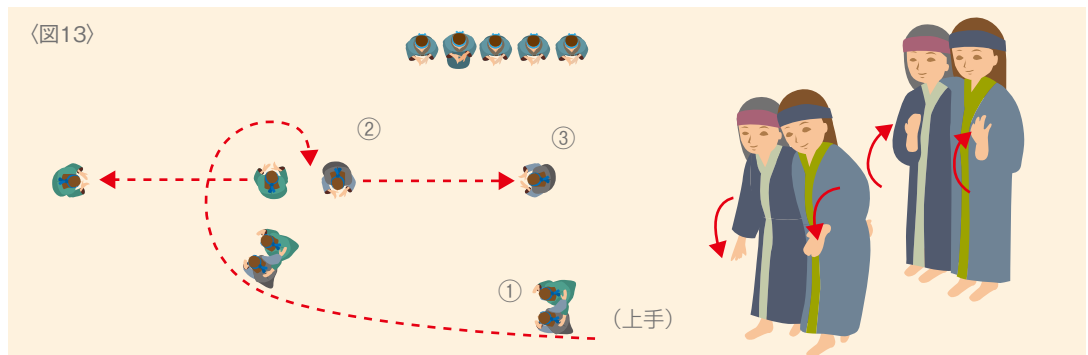
上手から2人の女性が肩を組み、片手を上下させながら登場します。



中央で止まり、それぞれ前と後ろを向いて手をたたきます。5歩横に進んで左右に広がり、止まって向き合います。



〈図13〉



女性の動き

膝の辺りで手をたたき、両手を胸に引きあげる動作を左右交互にくりかえしながら前に進みます。



中央で手をたたきながら頃合いをみて、互いに向き合って横になります。片方の手で床をたたき、もう一方の手で脚をたたいて拍子をとります。



上手から男性が、右手を額、左手を腰にあてて登場します。一歩ごと足を止めて歩きます。



女性の周りをまわり、2人の女性の肩に手を置いてお互いに見合います。



男性は2人の女性の間に入り、ひざをたたきながら左右の女性を交互に見ます。女性は両手を左右の床につけます。



女性は頃合いを見て時計回りにひざをついて半周進みます。



女性は両手を左右の床につけて男性を見ます。男性はひざをたたきながら2人の女性を交互に見ます。



女性は男性のひざをつかみ自分に向けて、男性のひざをたたき、男性は女性の肩をたたきます。男性を取られた方の女性は、床をたたいて悔しがります。



女性は立ち上がって、男性の肩をたたき、時計回りで半周し、男性を立ち上がらせて、3人で肩を組んで時計回りで回ります。



女性は頃合いを見て、男性の手をそれぞれ引っ張ります。



2人の女性は男性を放り出して、組み合って足で蹴るなどします。



男性は、いさめようと2人の間に割って入りますが、同じことがくりかえされます。



女性は引っ張り合いをくりかえします。ついには一人が手を離してしまい、床をたたいて悔しがります。



もう一方の女性は、男性と肩を組んで手を振り、悔しがる女性の周りを回ります。男性が悔しがる女性の肩をたたくと、女性は男性の足をつかみます。



女性は、やがて振りほどかれてしまいます。男女2人は上手に退場します。





1人になった女性は、床をたたいたり、マタンブシ（鉢巻き）を取って泣くまねをします。



3人目の女性が上手から登場して、悔しがる女性を慰めながら一緒に立ち去ります。



## 【踊りのながれ】

①

女性2人が登場し、1人は前を向き、1人は後ろを向いて、手をたたきながら両横に移動し、止まって向かい合う。

②

手をひざ横でたたきながら前に進み、中央まできたら傾合いを見て、横になる。  
左→右の順で手をたたく

③

上手から、男性が登場し、一周する間にそれぞれの女性の肩をたたいてから、女性の間に座る。  
女性はその間、床と腰をたたき拍子をとる。

④

ア女性は左側からおじぎをするような動きを左・右と交互に4回ずつ程度する。男性は客席側に頭を向けた女性に対し顔を向ける。  
手は左右につけながら周る。  
イ女性の位置を半周し、かえる。かえた後アと同じ動きを繰り返さず。男性はずっとひざで、拍子をとる。

⑤

⑤ 女性は、男性のひざをつかまえて、自分の方へ向かせます。とられた女性は悔しがって床をたたきます。とった女性は男性の両ひざを男性はとった女性の両肩をたたき拍子をとります。

⑥

⑥ 男性の肩をたたきながら女性は立ち上がり男性の周りを半周する。男性の腕をとり、男性を立ち上げ肩を組み軽く一周したところで男性をひっぱりあう。  
男性を投げ飛ばし、女性同士で蹴り合い。男性がいさめようとする。

⑦

⑦ どちらかの女性が手をはなしてしまい、1人は悔しがります。もう1人の女性は男性と肩を組み歩きます。途中悔しがっている女性が男性の足をつかみますが、振りほどかれます。肩を組んだ男女は退場します。

⑧

⑧ 1人になった女性はマンプシを取って泣くまねをします。3人目の女性が悔しがる女性を慰めながら退場。

## おわりに

日々の生活の中で生まれ、受け継がれてきたアイヌの踊り。人々が集まれば、特別な楽器がなくとも踊りが始まりました。神への感謝、そして自分たちの楽しみのために踊りました。

踊りは、アイヌの人々にとって暮らしになくてはならないものだったのです。

現在、アイヌの踊りは北海道の各地に伝承されており、地方ごとの特徴を持っています。

これらの踊りはアイヌ古式舞踊として国の重要無形民俗文化財に指定されています。



イラッ ウボボ



チカブ ウボボ



ホリッパ〜フチトノアンナ



ホリッパ〜イッケウエ



ホリッパ〜カムイランナー



ヘクリサラリ



ピリカ オッカイ リムセ

## ■出演者 (敬称略)

【旭川地方】 イラッ ウポポ・チカッ ウポポ

〈旭川チカッピニアイヌ民族文化保存会〉

【踊り】 小河原憲子 柏原 里美 加納ルミ子  
川村 久恵 川村 愛 木村多栄子  
八谷 麻衣 松本 里美  
【歌】 太田 奈奈 加納ルミ子 川村 兼一  
杉村 恵子 八谷 麻衣 八谷 昌子  
前野祐貴子 山浦 恵子  
【解説】 川村 兼一

---

【千歳地方】 ホリッパ

〈千歳アイヌ文化伝承保存会〉

【踊り】 石辺 勝行 小田 智子  
墨谷 真澄 高橋比登美  
田中サツコ 中田亜由美  
中村 勝信 中本佐和子  
西村加代子 野本 久栄  
平井 史郎 山口 直美  
山田 良子 渡辺美智子  
【歌】 野本 敏江  
【解説】 中村 勝信

---

【弟子屈地方】 ヘクリサラリ・ピリカ オッカイ リムセ

〈弟子屈町屈斜路古丹アイヌ文化保存会〉

【踊り】 磯里 多恵 江口サヨ子  
工藤 道 工藤みどり  
後藤 洋子 武田 千鶴  
堂山 浩子  
【歌】 伊藤ヨシエ 菊地 友江  
木村 芳江  
【解説】 後藤 洋子

## 参 考 文 献

アイヌの踊りの参考となる文献を紹介します。

- 岡田和夫・松宮文子・村上紀子・平野正美  
1998：『新版 絵でみる 表現・民舞指導のポイント』株式会社あゆみ出版
- 萱野茂  
1996：『萱野茂のアイヌ語辞典』株式会社三省堂
- 一般財団法人アイヌ民族博物館  
1993：『アイヌ文化の基礎知識』株式会社草風館
- 田村すず子  
1987：『アイヌ語沙流方言辞典』株式会社草風館
- 日本民俗舞踊研究会  
1987：『北海道アイヌ古式舞踊 昭和 61 年度文化財国庫補助事業調査報告書』
- 北海道アイヌ古式舞踊連合保存会  
1987：『北海道アイヌ古式舞踊・唄の記録』  
昭和 60 年度北海道アイヌ古式舞踊連合保存会委託事業
- 北海道教育庁生涯学習部文化課  
1992：『平成 3 年度 アイヌ古式舞踊調査報告書（Ⅱ）－様似・門別・千歳－』  
北海道文化財保護協会
- 北海道教育庁生涯学習部文化課  
1993：『平成 4 年度 アイヌ古式舞踊調査報告書（Ⅲ）－三石・弟子屈・札幌・常呂－』  
北海道文化財保護協会

## 踊りを体験できる施設

アイヌの踊りを体験できる施設をいくつか紹介します。

- |                                 |                  |
|---------------------------------|------------------|
| ●阿寒湖アイヌシアターイコロ                  | 釧路市阿寒町阿寒湖温泉 4 丁目 |
| ●一般財団法人アイヌ民族博物館                 | 白老町若草町 2-3-4     |
| ●川村カ子トアイヌ記念館                    | 旭川市北門町 11 丁目     |
| ●札幌市アイヌ文化交流センター<br>「サッポロピリカコタン」 | 札幌市南区小金湯 27      |
| ●昭和新山アイヌ記念館                     | 有珠郡壮瞥町昭和新山       |
| ●のぼりべつクマ牧場・ユーカラの里               | 登別市登別温泉町 224     |
| ●平取町立二風谷アイヌ文化博物館                | 平取町字二風谷 61       |

アイヌ生活文化再現マニュアル  
踊り

【ウポポ・ホリッパ・リムセ】

旭川・千歳・弟子屈編

---

2015年7月 発行

発行 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7(5階)

TEL (011) 271-4171/FAX (011) 271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。